

知情意の生活を

—— 母こそ行為の基準 ——

太田川の水がぬるみ、天水の丘に桜が咲き初めた四月五日、清新な千鳥格子の制服に身を包んだ新入生七四名が入学して、我が比治山女子短大は、学生数一五八九名の大所帯となった。開学以来初めてのことである。志願者も広島を中心に、山陰そして四国愛媛など急増した。真に喜ばしい限りだが、これに応えるべく、今、私共は、心を新たにしている。さて、私は、入学式に当たり、大学とは、勉強するところであり、知性を磨き真理を追究するところであると述べたが、ここに改めて、大学に学ぶ者の心掛けについて申しておきたい。

学生の中には勉学は大学に入学するまで、大学で



比治山女子中学校での家庭科教育実習風景

は自由気儘に過ごし、バイトに精出して青春をエンジョイする所と考える者もいるかも知れない。しかし、大学は学究の場であり、知性を磨く自由はあるが勝手に時間を浪費することは許されない。真理追求こそが大学に学ぶ者の本務なのである。

だが、知に走りすぎ、みずからの榮達をのみ考える利己的人間になつてはならない。人間社会は持ちつ持たれつであり、決して一人で生きられるものではない。相互に協力し合い、人格を尊重し合つてこそ、平和な明るい社会が生まれるのである。クラブの活動は、そうした、互に他者の意見を聞き、人格を認め合う場ともなるであろう。進んでクラブに入り、その活動の中で、他者を思いやる温かい心情を育てて欲しいと思う。

しかし、情に流されてはならない。情に流されそれに溺れるとすれば、行為の判断をあやまり、善を行うことはできない。大切なのは、善だと知ればそれを実践する強い意志を持つことである。そのためには、先賢に見習うべきである。先賢に見習つて、善を実践する強い意志を育てていくことが肝要であろう。

このようにして考えてくると、大学に学ぶ者は、

- ① 知性を磨き、真理を追求すること、
- ② 温かい思いやりの情愛を養うこと、
- ③ 善だと知れば、それを実践する強い意志を育てること、

総じていえば、知・情・意のバランスのとれた人間性を養うよう心掛けること、ということになるであろう。

かくて、大学とは、人間形成の場であり、大学に学ぶ学生は、豊かな人間性を身につけることが大切なのであ

る。ただ、価値の多様化した現代にあっては、何を行為の基準にすべきか案ぜられるところであるが、その一つとして「父母」が挙げられよう。父母、特に母親に喜ばれる行為を善とし、悲しまれる行為を悪とするそれを尺度とすれば、それは道徳的行為の基準となり得ると思う。なぜなら、母親の、子を思う心は純粹であり、不善を進めることはされないだろうからである。子にとっての母親は、まさに完全であり絶対そのものなのである。

十億の人に 十億の母あらんも 我が母にまさる 母ありなんや

この暁鳥敏氏の歌を口ずさむたびに、私は、母が思い出され、新たな感慨にひたるのである。

貧しかった少年時代の私は、服もめったに買っては貰えず食べ物も馳走はなかったが、それでも、いつも糊のきいた小ぎつぱりしたシャツ等着せて頂いていたし、食事もとてもおいしかった。私にとって、母は、まこと洗濯も炊事も誰よりも上手な世界一の母だと思っていたが、それは不遜な思い上りだっただろうか。しかし、私のみならず、誰しも、我が母こそ世界一と思っていたに違いない。その世界一の母は、誰にとっても掛け替えのない絶対者であり、決して悪しき導きはされない筈である。だとすれば、我が母の示す道は、必ずや、間違いのない行為の基準となり得ると思うのである。

今新学年を迎えるに当たり、私は、諸姉に対し、大学進学をお許し下さったご両親に感謝の誠を捧げると共に、知・情・意のバランスのとれた人間性を養い、善行為を実践する人間になるよう、日々充実して過されんことを、心から願う次第である。